



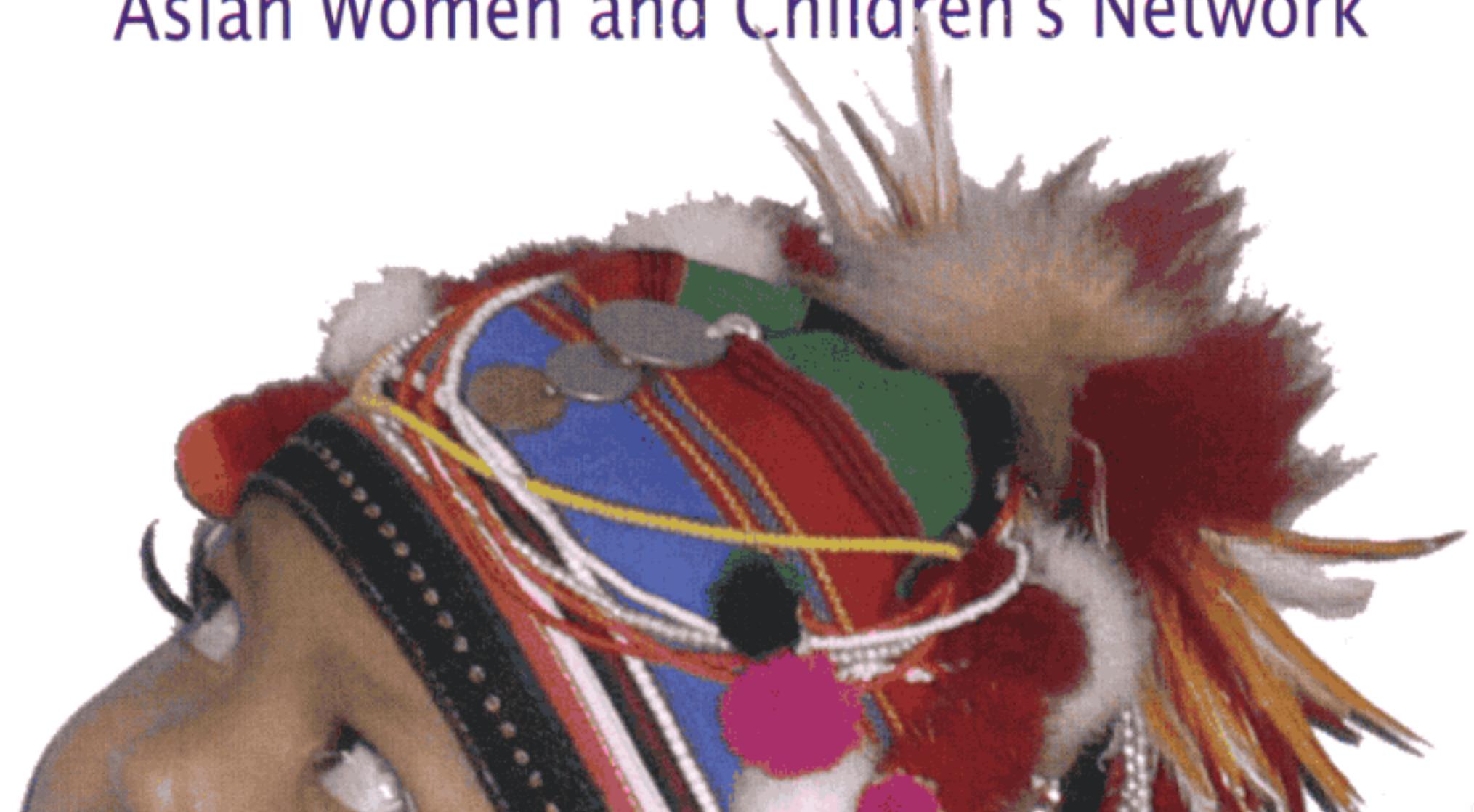
Asian Women & Children's Network

アジアの女性と子どもたち
Asian Women and Children's Network

アジアに住む親として.....
子どもとして.....
人間として.....

アジアの女性と子ども ネットワーク

Asian Women and Children's Network



学校建設プロジェクト

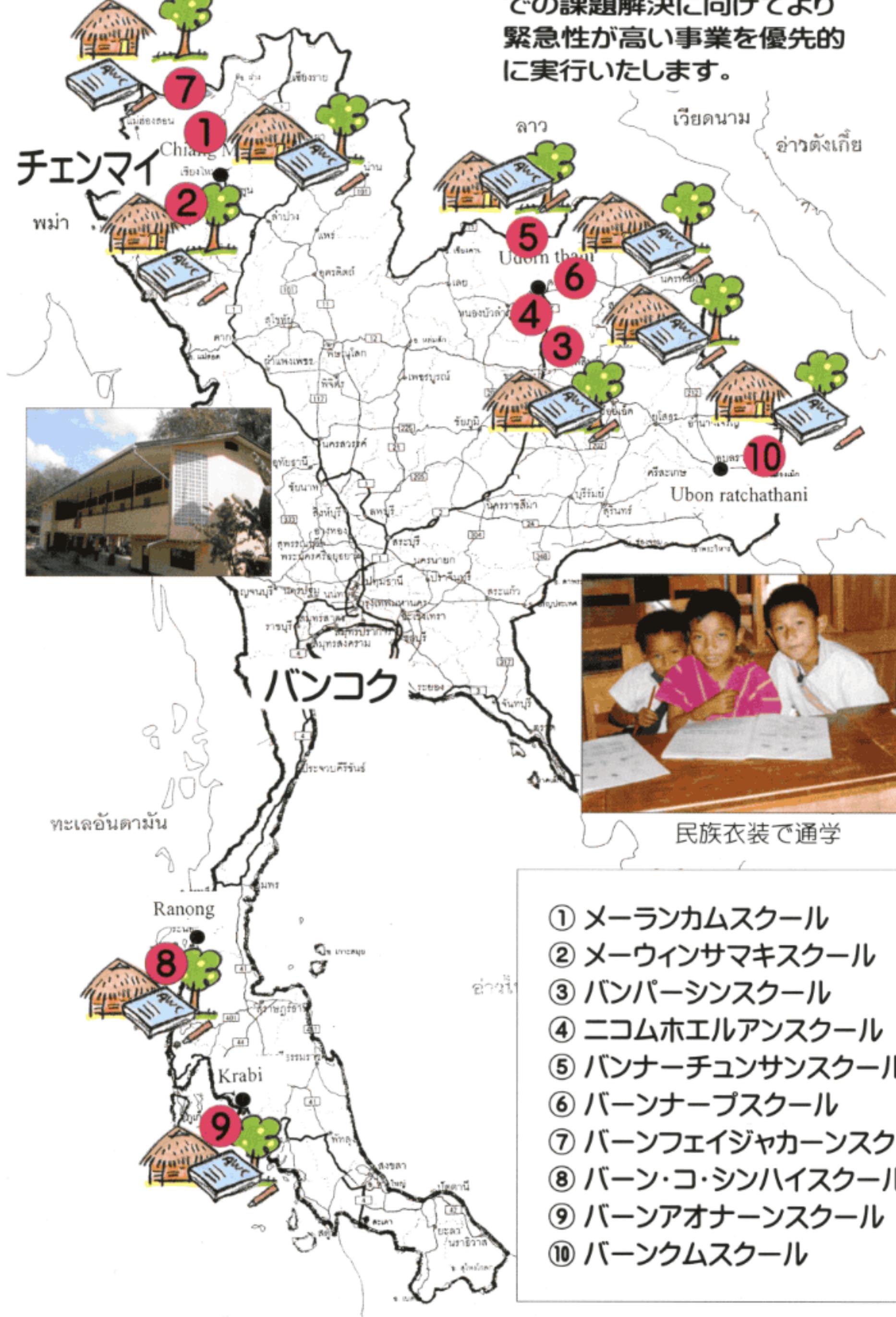
～わたしの村にも学校ができたよ～

タイ北部山岳民族の村で、母親たちが子どもを学校に入学させてほしいと座り込みをしている場面に出合ったことから AWCの活動がスタートしました。

教育支援の一環として、元々ある学校の校舎や寮の建設に協力し、子どもたちの学びの環境を整えるお手伝いをしています。 NTTドコモの助成により1998年から開始され、2007年度までに10校を建設しました。遠方から通う子どものための寮も3校に4棟建設されました。このプロジェクトにより現在約4000人の子どもたちが学校に通っています。

カレン族の子どもたちが通うメーランカムスクールでは、生徒たちの給食のために養豚事業も行っています。

今後は、井戸、飲料水タンク、テスク、多目的教室など現地での課題解決に向けてより緊急性が高い事業を優先的に実行いたします。

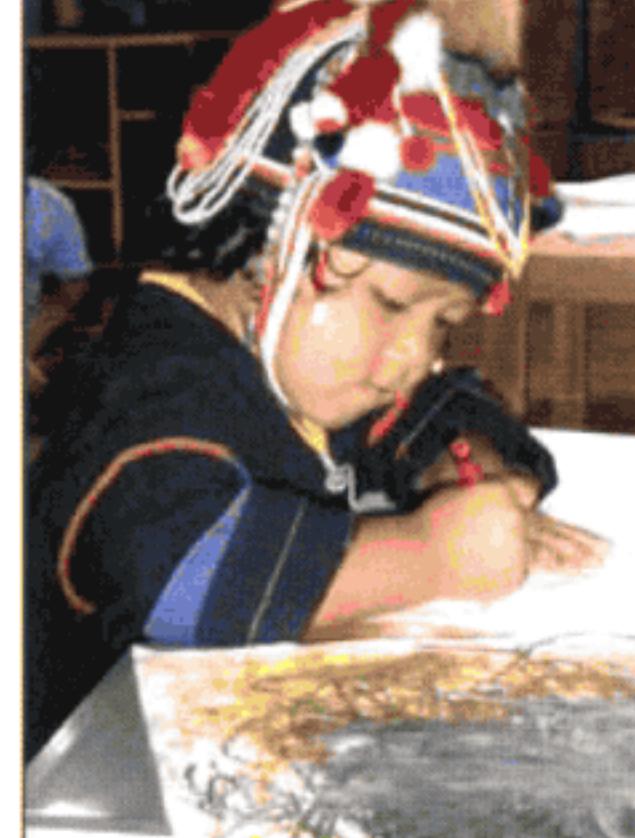


おなかいっぱいプロジェクト ～栄養いっぱいおいしいごはん～

タイに住む山岳民族の子どもが、栄養のある温かい食事でおなかいっぱいになり、ニコニコ元気で遊べるためのプロジェクトです。

プロジェクトの実施場所はタイ王国最北県、チェンライ県メエヤオ地区にあるリーパー村のチャイルドセンターで実施します。3歳～5歳までの子どもたち25人が通っています。併せて村内での栄養指導も実施します。

*まんぶく基金(一口500円)へのご寄付、書き損じはがきを随時受け付けております書き損じハガキ2枚で3人の子どもに栄養のある食事を一食提供できます。



AIDS孤児里親基金

～安心・元気な暮らしのために～

タイに住むAIDS孤児のために薬代、通学のための費用等の協力支援を行います。

AIDS孤児とは、親(片親でも)がHIV/AIDSに感染し、生活に数々の不具合が生じている子どものことです(本人がHIVに感染しているとは限りません)。 愛の家には現在HIVに感染した6人の子どもがいます。他の子どもに比べて免疫力が低いので衛生と栄養補完等に気をつけなければなりません。抗HIV薬を服用している子どももいるので支援が必要です。協力先は、タイ・チェンマイにある”愛の家”と”希望の家”です。



* AIDS孤児里親基金
一口1000円、5000円で
1人の子どもの1か月分
の学費・薬代・食費など
の生活費をまかなえます

Women to Women プロジェクト ～魚の提供ではなく、魚の釣り方を～

AWCでは、その場限りの支援(魚)ではなく、社会的立場の弱い人が、自分の力で立ち上がりていくお手伝い(魚の釣り方)をすることがモットーです。

このプロジェクトは、山岳民族の女性への大学、大学院進学の奨学金制度で、自分たちの生活を向上させるリーダーシップを彼ら自身がとることを目指しています。



子どもの商業的性的搾取の根絶にむけての活動

～人をお金で買う、それは恐ろしいことです～

「子どもの商業的性的搾取は子どもの権利に対する根本的な侵害である。子どもは性的な対象物として売買する物品として扱われる。子どもの商業的性的搾取は子どもに対する強制及び暴力の一形態であって、強制労働や奴隸制の現代的な形と言える（子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議：ストックホルム宣言より抜粋）。

AWCでは、子どもの商業的性的搾取の根絶を目指して、日本国内での法律の制定、改善を呼びかけるロビー活動や、ワークショップ、シンポジウムの開催等を行っています。2001年12月、横浜で第二回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議（横浜会議）が開催されました。AWCは、日本における子どもの商業的性的搾取の一形態として、援助交際についての発表をしました。

AWCは子ども買春子どもポルノ禁止法の成立、改正に向けたロビイング活動も行っています。

※報告書やブックレットの販売も行っています。
事務局までお問合せ下さい！



スタディツアー ～見タイ・聞きタイ・感じタイ～



毎年夏季に支援先を訪問するスタディツアーを実施しています。

学校・施設訪問・山岳民族の村ホームステイなど、タイのたくさんの人とのかかわりの中で様々な問題や現状を実際に自分の体で感じてみませんか。自分の目で見て、自分の頭で考えて、時には旅の仲間と想いを共有します。違う土地、違う民族、ちがう習慣、ちがう言葉の中でも同じものはきっとあるはずです。

旅で得た仲間、経験、私にとって宝物です。



AWCの活動

現在、アジアが急速に経済発展を遂げています。しかし、それは同時に労働条件の悪化、環境破壊、貧富の差の拡大等をもたらし、特に女性や子どもといった社会的弱者の人権を侵害しています。私たちはこの状況を解決するために、まず、彼ら自身のエンパワーメントが重要だと考えています。同じアジアに住む人間として、女性として、親として、子どもとして、手と手を取り合って、彼らと、そして自分自身のために活動していきたいという観点から、アジアの女性と子どもの権利を守るための活動を行っています。

AWCのあゆみ

1997年	子どもの商業的性的搾取に反対する活動をスタート
1997年	AIDSを止めてプロジェクトスタート
1998年	学校建設プロジェクトスタート
2000年	Women to Womenプロジェクトスタート
2001年	第2回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議(横浜会議)参加
2004年	ハッピーコンテナプロジェクト
2005年	AIDS里親基金開始
2008年	おなかいっぱいプロジェクト開始

受賞歴

2001年 7月	加藤シヅエ賞
2001年 11月	かながわボランタリー奨励賞
2001年 12月	生活クラブキララ賞 (ユースグループAYA)
2002年 3月	かながわレッドリボン賞

AWCのポリシー

AWCは会費制を取っておりません。プロジェクトごとに賛同して下さる方々からご寄付を頂き、皆様方と一緒に事業を実施していきたいと考えています。

タイ交流団体

愛の家
バーンサバイ
アーサーパッタナーテック財団
ミラー財団
希望の家
Found for Thai Friends (FTF)



フェアトレード ～真の自立をめざして～

世界のグローバル化、貨幣経済の流入によって、伝統的な暮らしを営んできた山岳民族たちも現金が必要になりました。

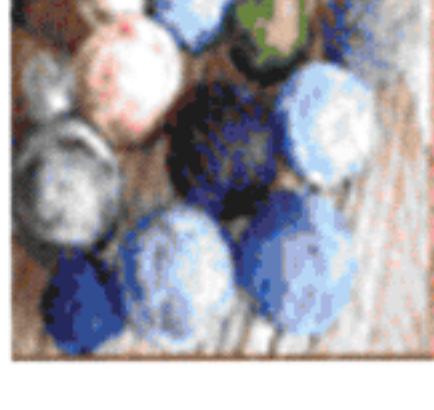
都会に出稼ぎに行くこともあります、騙されて危険な仕事に従事させられることもあります。

AWCでは山岳民族の女性の手芸品を適切な価格で購入し、日本国内で販売を行っています。伝統が薄れしていく中、フェアトレード品の購入は女性たちの自立支援、伝統工芸の保護、安全な職業機会の提供につながります。バザーでの直接販売のほか、一部商品は通販も行っています。



☆事務局までお問い合わせください。

私たちのまごころが
こもった手作りの作品です。



ボランティア テー
毎月第三木曜日1:30から
事務局にてボランティアデー
を開催しています。楽しく
タイのこと、子どもたちのこと、
法律のことなどおしゃべりしながら
作業をお手伝いいただい
ています。是非ご参加ください。

ご協力下さい。
AWCでは皆様からのプロジェクト
の為のご寄付は全額先方へ届け
ています。通信費、事務経費にも
ご協力をお願いいたします。

この指とまれ！

AWCではそれぞれのプロジェクトに
ご賛同頂ける方からのご寄付やお力
でプロジェクトを行っています。
私たちの活動に参加してみませんか？

バザーアイベント

NGO団体が集合するイベントへの出店等、
バザーではタイ民芸品等を適正価格にて
販売しています。

書き損じハガキ

おなかいっぱいプロジェクトでは
書き損じハガキの募集を隨時
行っています。書き損じハガキ
2枚で3人の子どもに栄養たっぷり
の給食を1食提供できます。

振込先

郵便振替:00200 - 0 - 4109

口座名称:「AWC」

備考欄に、振り込み先プロジェクト名をお書きください。

アジアの女性と子どもネットワーク

代表 マリ・クリスティーヌ

〒231-0015

神奈川県横浜市中区尾上町3-39

尾上町ビル9F YAAIC内

Tel&Fax 045-650-5430 (月/水/木/金 13時~17時)

E-mail:awc@h6.dion.ne.jp

URL : <http://www.awcnetwork.org/>



お気軽にお問合せ下さい。

2008年(平成20年)12月3日(水曜日)

楽天の岩隈が、社会貢献活動を評価され、「ゴールデンスピリット賞」を受賞した。彼の寄付金でタイに設立された「岩隈図書館」は、それほど、現地の子供たちに夢と希望を与えるものでもあった。

夫人の友人からボランティア団体を紹介された岩隈は、昨年から1勝につき10万円の寄付をスタート。2004年のスマトラ島沖地震の被災地、ラノーン県の小島に図書館を作ろうとい

う話が持ち上がり、30万円を使うことになった。

8月に完成。学校には

幼稚園から中学生まで約

300人が通うが、教科書

すら持てない子供も多く、

勉学にも大きな力となっ

た。また、津波で船が流さ

れた人も多く、漁業中心の

島全体に暗い影を落とし

ていたが、図書館が子供た

「岩隈図書館」21勝の原動力

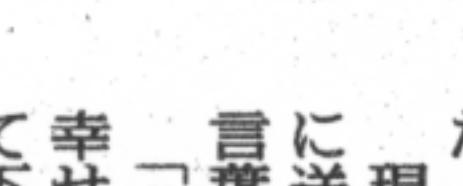
ちの懇いの場となり、心に光を与えるものになった。

現地の中学生が岩隈に送った手紙には、こんな言葉が書かれている。

「私たちを学習に対しても、幸せを感じられるようにして下さった岩隈さんの成功をお祈りしています。私は

学習に励みます」
岩隈の活躍ア活動をする時、それは最も理想の形なんです」

ルギーになつたのかもしれません。私たちがボランティア活動をする時、それは最も理想の形なんです」



・荒井秀一・

かつた。昨年の5勝から21勝。子供のために1勝でも多く頑張ろう、という気持ちが、見えないところで成績を押し上げたように思えてならない。今回、建設にてなった岩隈さんとの成功を祝し上げたように思えて下さった岩隈さんの成功をお祈りしています。私は本博子事務局長は言う。「勝てば子供を応援できること」ということが、彼のエネルギーになつた。